

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号
------	-------	---

氏 名 山 田 章 子

論 文 題 目

言語的コミュニケーションが困難な ICU 患者の痛みの
アセスメントツールの開発

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	安藤 詳子
	名古屋大学教授	玉腰 浩司
	名古屋大学教授	池松 裕子

論文審査の結果の要旨

集中治療室(Intensive Care Unit: 以下 ICU)入室患者は、様々な痛みを体験する。痛みは、身体的・精神的ストレスとなり、混乱状態や身体状態の悪化を招くため、痛みのマネジメントは重要である。言語的コミュニケーションが可能な患者は、容易に痛みの強さや部位を医療者に伝えることができるが、ICU 入室患者は、人工気道と持続的鎮静を使用しており会話が困難であるため、痛みを訴えることができない。近年、医療者が、言語的コミュニケーションができない患者の痛みを、患者の行動を観察して評価する Critical-Care Pain Observation Tool(CPOT)が米国で開発された。CPOT は、国際的に高く評価され、複数の言語に翻訳されているが、日本語版はまだない。

本研究では CPOT 日本語版を作成し、信頼性と妥当性を検証し、有用性を評価することとした。

本研究は、研究Ⅰ日本語版 Critical-Care Pain Observation Tool(CPOT-J)の作成、研究Ⅱ日本語版 Critical-Care Pain Observation Tool(CPOT-J)の信頼性・妥当性・反応性の検証、研究Ⅲ事例検討による有用性の評価の3つの研究で構成されている。

研究Ⅰの CPOT-J の作成は、CPOT の原作者である Gelinas から翻訳の許可を得た後、バックトランスレーション法を用いて、CPOT-J を作成した。逆翻訳で、原文と3か所で相違がみられ、逆翻訳版を作成者に E-Mail で送り、逆翻訳の表現を用いる許可を得た。

研究Ⅱは、術前に同意を得た心臓血管外科患者34名を対象に、麻酔覚醒後で人工呼吸器装着中に、研究者とICU看護師とが独立してCPOT-Jを用いて痛みを評価し、評価者間信頼性を検証した。妥当性についてはCPOT-Jの点数と、バイタルサインおよびRichmond Agitation-Sedation Scale (RASS)との関連性を検証するとともに、抜管後にインタビューし、患者自身が自覚した痛みとCPOT-Jとの値を比較した。反応性については、体位変換などの痛み刺激の直前・直後・20分後に測定、その変化を検証した。結果は、評価者間信頼性については、重み付け κ 係数が、0.48~0.94の範囲であった。痛み刺激前後におけるCPOT-Jの変化値は、収縮期血圧および脈圧の変化値と相関がみられ、RASSの変化値とは相関は見られなかった。抜管後に患者から報告されたNumeric Rating Scaleとは、 $\rho=0.573(p=0.002)$ の有意な相関を認めた。反応性については、痛み刺激直後のCPOT-Jの値が他の時期に比較し有意に得点が高かった。

研究Ⅲの事例検討による有用性の評価は、34名の患者のうち、CPOT-Jの数値が患者から報告されたNRSと一致しているケースと、不一致であったケースの2ケースについて、痛みの性質の違いについて検討した。結果は、CPOT-Jと患者の自己

論文審査の結果の要旨




報告が一致したケースは、主に胸骨中央部の創の痛みで、一致しなかったケースは、背部の痛みであった。患者がさすることができる部位であることや、痛みの範囲が限定的であることが、CPOT-J で正確に評価できる要件であることが示唆された。

以上のことから、CPOT-J は、痛み刺激直後と 20 分後で高い評価者間信頼性が得られ、痛みの変化を把握する際に一致しやすいことが示唆された。CPOT-J の変化値と脈圧および収縮期血圧の変化値との相関から、弱いものの基準関連妥当性が認められた。RASS と関連はなく、鎮静レベルと痛みとの弁別性は確保できると考えられたが、対象患者の中に、興奮状態の患者がいなかったため、さらなる検証が必要である。反応性については、痛み刺激の前後で有意な変化が見られたことから、痛みの変化を捉えることに優れていることが示唆された。NRS との中程度の相関から、ある程度患者の知覚する痛みを把握することが可能であるが、CPOT-J では評価できない痛みがあるという限界を踏まえた上での活用が望まれる。

なお、論文の一部は、日本集中治療医学会雑誌(23 巻,2016 年)および Pain Management Nursing (Available online 21 April,2021 年: IF=1.925)に掲載された。日本集中治療医学会雑誌に掲載された論文は、2016 年度日本集中治療医学会論文賞奨励賞を受賞した。

以上の理由により、本研究は博士(看護学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	山田章子
試験担当者	主査	名古屋大学教授	名古屋大学教授	名古屋大学教授
	安藤 詳子		玉腰 浩司	 池松 裕子 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作成した痛み尺度（日本語版Critical-Care Pain Observation Tool ; CPOT-J）の評価方法について 2. ICU患者が体験する痛み刺激について 3. CPOT-Jを試用した際の、データ収集実施時の対象者の除外基準について 4. CPOT-Jの一致率が本研究より高い他の言語は何であるか 5. CPOT-Jの評価項目のそれぞれの一致率について 6. 心臓血管外科術後患者の痛みの部位および性質について 7. 心臓血管外科患者以外でのCPOT-Jを用いた痛みの評価の可能性について 8. 臨床においてCPOT-Jを使用する意義について 9. CPOT-Jを洗練するための今後の研究課題について 10. CPOT-Jを臨床での使用を広げていくための方略について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学 力 審 査 の 結 果 の 要 旨 お よ び 担 当 者

報 告 番 号	※ 乙 第	号	氏 名	山 田 章 子
学 力 審 査 担 当 者	主 査 名 古 屋 大 学 教 授 安 藤 詳 子 印	名 古 屋 大 学 教 授 玉 腰 浩 司 印	名 古 屋 大 学 教 授 池 松 裕 子 印	
(学 力 審 査 の 結 果 の 要 旨)				
<p>以下の問題について口頭試問を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICU 患者の特徴について 2. 痛みの評価について 3. 侵害受容性疼痛について 4. 翻訳版尺度を作成する際の注意事項について <p>以上の試験の結果、本人は看護学一般における知識と研究の基礎的能力を十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				